

■H30.5.8 市長定例記者会見内容

日時 平成30年5月8日（火）午前10時～

場所 庁議室

出席 市長、副市長、危機管理監、地域創生部長、農林水産部長、都市デザイン課長、交流観光課長、社会教育文化課長、市長公室長
酒田記者クラブ 7社（山形新聞、荘内日報、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、NHK、YBC）

■内容

1. 記者発表事項

①酒田駅前再開発の進捗状況について

市長／詳細については、基本計画等でお知らせしているが、実施設計のイメージパースができた。データで提供したので見て欲しい。ライブラリーセンター内部のイメージパースも含まれており、利用者視点でイメージできると思う。図書館とフリースペースでパネル展示を行って、周知を図る。実施設計ができたということで、国土交通省と協議の上、7月ごろには発注できるように向かいたい。平成33年春ごろオープンのスケジュールで考えている。

記者／主な変更箇所、外観的なものも含め、議会への報告の後、大きな変更はあるか
市長／メインの入り口として、建物中央付近にある中庭付近を想定した設計となっていたが、多くの方が駅側から入ってくるであろうことから、駅側入り口付近にもエレベーターを配置した。外観的にはあまり変わらない。なるべく地元産材を使って欲しいという思いがあり、地元産材を内装の木材に使うように注文を出したので、それに伴う変更はある。

都市デザイン課長／基本設計からの変更として、外観上は変更なし。駅側へのエレベーター設置。配架については天井まではやめた。施設内の観光情報センター周辺のデザインについては、デザイナーに依頼。耐震・防火対策のために地元産材を使える箇所は限られたが、内装の家具等に使用した。

記者／市では地元産材の使用に補助金を出して奨励しているが、今回の施設への地元産材の使用には何か明確な考えはあるか。

市長／本棚の木材としては、地元産材を使うことはできなかった。カフェなどに使用するなど工夫をした。どれくらいの量を使えるかはこれからの話。

課長／観光情報センター周辺などや、子ども向けの閲覧スペースなどに、地元産材を使用している。

②酒田希望音楽祭 音楽のまちプロジェクト「市原多朗マスターコース」の開催について

市長／ぜひ取材いただきたい事業。文化芸術基本条例、推進計画を策定。狙いは文化芸術をいかしたまちづくりの推進。名誉市民の市原多朗氏の協力を得て行う事業。市原氏は声楽家としてのみならず、指導者としても大きな評価を得ている。その力を、本市のまちづくりにいかしたい。世界の有名な歌劇場で主役も勤めた同氏の指導力は、多方面で高い評価を受けている。その指導力を発揮していただき、酒田市としてもそのお手伝いがしたいという思いもある。事業の中身としては、同氏が選抜した有望な若手声楽家のレッスンとコンサート。全国的にも非常にまれな事業。コンサート出演者を、レッスンの観客の投票で選ぶ仕掛けも。伴奏の山口氏（東京藝術大学講師）による、伴奏家のための伴奏家の講義も行う。酒田だけの特別企画。若手声楽家は市内にホームステイし、市民と交流も行う。声楽家の金城氏はミス琉球絃（かすり）。金城氏がホールで着物姿を披露したり、同じく声楽家の喜納氏が三線の演奏を行ったりする。今回初めての企画ということで、市原先生の考えが多く反映されている。今後、市民合唱団との合同公演も予定されている。肝いり事業でもあるのでPRをお願いしたい。

記者／投票で何を決める？

市長／公開レッスンに参加した声楽家の中から、翌日のコンサートの出演者を投票で決める。

記者／市原氏の生年月日を教えて欲しい。

社会教育文化課長／後ほどお知らせする

記者／6人は市原氏が選んだ？

社会教育文化課長／将来有望な声楽家。すでにプロ。

記者／市民合唱団との合同公演、6人も含めてか

社会教育文化課長／決まってはいないが、第九など。

記者／年度内に行うのか

社会教育文化課長／未定である

記者／6人以外、今回のコンサートに市原氏は出演しないのか。

社会教育文化課長／しない。歌の解説のみ。

市長／出てもらうのはハードルが高い

社会教育文化課長／コンディション次第では可能性あるかもしれない

記者／今回の公開レッスンのような企画、あまりない？

市長／普通はない企画。小沢征爾氏がサマーキャンプなどは聞いたことがあるが。酒田をオペラのキャンプ地的な扱いになれば、音楽のまちの実現に寄与する。そういう風土ができればいい

記者／来年度以降も続けたい？

市長／全く同じ形ではないと思うが、できれば続けたい思いはある。市原氏と相談しながら企画していきたい。

記者／松本のサイトウ・キネン・フェスティバルを目指すのか、合宿は酒田でとか。

市長／なかなか難しいが、実現すればおもしろいし、そうなって欲しいという思いがある。音楽だけにこだわって条例を作ったわけではないが、そうなって欲しい思いはある。

記者／山形交響楽団との連携は考えているか。

市長／地元の楽団なので、連携していきたい。

社会教育文化課長／山響とは、今年度から連携してやっていく。

記者／楽器講習会、去年は自衛隊などが来た。それが今年度は山形交響楽団になるイメージか。

社会教育文化課長／そうなると思う。連携してやっていきたい

2. 懇談

◎幹事社による代表質問（事前通告）／なし

◎フリー質問

【滑走路延長について】

記者／庄内空港の滑走路延長について知事が発言したが、具体的には何か動きがあるのか。

市長／具体的には現在動きは無い。しかし知事は滑走路延長について言及した。737クラス、中型機を安定的に飛ばして欲しい。冬場の離着陸、インバウンドも考えると必要。実現できればという思いある。短時間で実現可能ならば、ぜひ庄内空港に整備して欲しい。2,500メートル滑走路に関しては、利用者50万人という目安がある。現在40万人だが、国の補助がつけば実現に近づくとと思う。しかし現在県で具体的な動きがあるわけではない。地元の声を県に届けていきたい。

記者／延長するとすれば海側になるのか。

市長／海側は保安林もあり難しい。具体的に話は詰まっていない。技術的にクリアする手法についても議論必要。

【クルーズ船おもてなしへの意気込みについて】

記者／外国クルーズ船の入港まで2か月。今年度の意気込みは。

市長／酒田交流おもてなし市民会議。昨年度は3つの部会でおもてなし活動を行った。おもてなし、見送り、中町での物販、中高生のおもてなしやパンフ作成など。今年はダイヤモンドプリンセスが2回、コスタも来る。全体をコントロールできるよう、会議の組織化が必要と思い、従来の3つの部会の上に企画運営部会をつくった。参加している団体数も300団体を超えており、組織自体大きくなっている所以コントロールの意味で。ダイヤモンドプリンセスの乗客は外国人が多いので、英語部会を作ったり、観光マイスター制度をつくったりしておもてなししたい。酒田の観光を思い浮かべたときに目玉となる「看板」をおもてなし市民会議から提供することで、酒田を代表しておもてなし

しているという自負を持ってもらうような取り組み。明後日総会があるので、今後の活動を協議したい。

記者／認証制度とは。

市長／具体的にはまだ言えないが、民俗芸能も含め、酒田ならではのものを認証することで、やりがい、プライドを持ってもらうような仕掛けを導入できれば。酒田を代表してやっているという思いを持ってもらいたい。

【ととけんについて】

記者／応募状況は

農林水産部長／応募は協会に行うので状況はわからないが、現在応募者を増やす取り組みを継続している。

【いか釣り船団出航式について】

記者／要望として。大変勇壮な出航式で、多くの方にその様子を伝えたい思いを持っている。しかし昨年のように出航時間が事前通告無く変更されるケースもある。各社がしっかりPRできるように調整してもらえるといいと思う。

農林水産部長／昨年は悪天候で、試験出航のような形となってしまった。急遽決まり、時間的余裕の無い中で急いで行った経過がある。

市長／天候がよければちゃんとした出航式となり、船団が一斉に出航していく形になる。

記者／今年度、新しい試みはあるか。

農林水産部長／新しい取り組みとしては特段無いが、例年通りにぎやかにやる。

市長／漁師さんたちは、日和を気にするので、今年度は平日に開催される。

記者／「いかのまち酒田」を普段からうたっている。観光客向けに「どこでイカ料理を食べられるか」などの情報提供必要では。

農林水産部長／伝道師とも相談して進めていく。船凍イカの提供場所の情報提供など。

市長／IWCの会場でもイカの情報提供を行う。IWCについても、新しくできた大屋根の下でやる。県内全体で売り上げが伸び悩んでいるとのこと。ぜひPRをお願いしたい。チケットは「チケットぴあ」などで取り扱っている。

記者／酒田・鶴岡ではしご酒できればいいかも。

市長／そこまでの話は出ていない。

【コミュニケーションポートについて】

記者／指定管理者制度は前から出ている話か。

市長／話は前からある。今回実施計画で正式に決定した。

記者／直営でなく指定管理、賛否両論あると思う。図書館のみならず観光関係も一括で指定管理するメリット・デメリットについて考えは。

市長／指定管理といえども、民間に丸投げするわけではない。図書館なので市もしっかりやる。図書館については、全国的な自治体において親しまれる施設として収益を上げているケースもある。民間のいいところ、例えば柔軟な運営、顧客サービスを念頭に置いた運営など、学ぶ点も多いと思う。学術施設でもあるわけなので、手を離すわけではなくしっかり市としてもやっていく。ホテルなどと一体の施設でもあるので、指定管理を受ける団体と手を組んでしっかりやっていきたい。

【飛島の焼却炉で基準値を超えるダイオキシンが発生した件について】

記者／観光地でもあり、心配に思う方もいると思う。今後、どのような対策を講じるのか。船による廃棄物の本土への運搬も限界があると思うが。

市長／現在、焼却炉について分析・検証を行っている。その結果、施設に欠陥があればその結果を踏まえて対応していきたい。県とタッグを組んで移住定住策にも取り組んでいくし、何より鳥海山・飛島ジオパークの重要な構成要素で起こっていることでもあるので、しっかり手立てを講じていく。船で全て運搬は現実的ではないと思う